

皆様 お元気ですか。ロシアによるウクライナ侵攻に関連してご心配のご連絡を頂いています。幸い、私の周辺、フランクフルトには特に危険な事態は発生しておりません。今週末、私はデュッセルドルフに出掛けたのですが、10℃くらいまで上がった気温に誘われて春を待ちきれない人々で街はにぎわっておりました。ただ、ドイツに居住するウクライナ人、ロシア人共に相当数おり、支持や抗議のデモ・集会なども開催されております。たとえウクライナへの支持・同情の考えを持っていたとしてもそういった動きに近づく行動は避けるべきです。

ウクライナと聞いて白地図上でここだと明確に指摘できる人は少ないと思います。こちらです。フランクフルトから首都キエフまでは1800 km、飛行機で二時間ほどです。



地図でもお分かりの通り、面積63万平方km（日本の1.6倍）、人口4300万人とウクライナは小国ではありません。現在は農業中心ですが、今後も独自に発展の期待される、れっきとした独立国です。一部にロシア系住人の存在やその支援が報道されますが、ロシア側のプロパガンダであり、もちろん侵攻を正当化する理由にはなりません。

プーチン大統領同様に独裁政権を続ける親ロシアのベラルーシを除いて、旧ソ連から独立した各国は、ウクライナ侵攻後、次のロシアの標的となる危惧を持っています。



現在

左は NATO の現在の加盟状況です。一国への攻撃は加盟国全体への攻撃と見做す、集団的自衛権を前提とする軍事同盟です。ウクライナを含む黄色の各国は加盟検討国です。ドイツの下のか国は永世中立のスイスとオーストリアです。



ソ連崩壊以前

右図の赤はソ連崩壊以前の NATO に対するワルシャワ条約機構の加盟国です。東ドイツ、ポーランドなど、ロシアとの間に複数の緩衝国が存在していました。ロシアからみて安全保障は十分だったわけです。当時西ドイツはまさに最前線でした。

ソ連崩壊後、ウクライナは親ロシア政権を経て、現在親西欧のゼレンスキー大統領が NATO への加盟を希望しています。

バイデン大統領のアメリカ、そしてドイツを含む NATO 諸国も軍事力の派遣を否定したことが今回のロシアの侵攻を許したといわれます。貿易・航空路・金融などで制裁を科して非軍事手段による方法で圧力をかけて事態が収束できればと願うのは私だけではないと思います。ロシアは今回軍事的に成功しても結果、経済的・総合的国家利益にならないことを理解して欲しいです。

ゼレンスキー大統領は、法学部卒のインテリかつ一方、俳優出身だそうです。高校教師が大統領になってしまうという映画への出演がきっかけで本当に大統領に当選しました。自身の身の危険を顧みず、私に必要なのは避難の為の車でなく、戦う武器だと SNS で訴えています。国家の指導者として、かくあるべきと思いました。